

1-5 形成計画の目標

前述の形成計画の3つの基本的な方針をすすめるために、目標を以下のように設定します。

基本方針	計画の目標
<p>村のまちづくりと協調した地域公共交通体系の確立</p>	<p>○「和紙の里」の活性化施策と連携した相乗効果のある地域公共交通体系により、おでかけの利便性向上と持続可能な交通体系として、施設の利用者数と満足度の増加、同時に公共交通の利用者数と満足度の増加を目指します。</p> <p>○村営バスと民間バスの統合により、地域全体を対象とした交通体系の構築を目指します。</p>
<p>和紙の里をハブとした交通ネットワークの再構築</p>	<p>○村外の鉄道駅と和紙の里を結ぶ幹線的公共交通の維持拡充によって、村民と来訪者のおでかけ利便性を向上させ、公共交通の利用者数と満足度の増加を目指します。</p> <p>○「和紙の里」をハブとした交通施設としての利便性と連携施設（和紙の里の交通結節点施設以外）との連携を高め、施設利用者数の増加と満足度を向上させ、施設のにぎわいや活性化を目指します。</p> <p>○村民の生活交通としての「おでかけ」と、村外からの観光等来訪時の「おでかけ」を両立させる公共交通体系を構築し、公共交通の利用者数を増加させることで持続可能性を高めることを目指します。</p> <p>○利用実態と地域のニーズに対応した村内の公共交通を再構築して、生活交通としての公共交通の利用者数の増加と村民・来訪者のおでかけ利便性の向上を目指します。</p> <p>○交通不便地区及び点在する観光施設へのデマンド交通などの導入可能性を実証実験等により探り、村民・来訪者のおでかけ利便性を高めることを目指します。</p> <p>○「和紙の里」のハブ化にあたり、過疎地福祉有償輸送やデマンド交通、自動車、自転車など多様な交通手段との連携を図り、様々なおでかけを確保できる交通施設・公共交通網を実現することで、利用者の満足度を向上させ、施設のにぎわいや活性化を目指します。</p>
<p>関係者の協働による利用促進策の拡充</p>	<p>○住民、行政、地域の活動組織、交通事業者と協働で、運賃体系の見直しやイベント開催、モビリティマネジメント、アクティビティを高め環境に配慮した車両導入などによる利用促進・活性化のための活動をすすめる、公共交通の利用者数と満足度の増加を目指します。</p> <p>○過疎地福祉有償輸送など、多様な交通モードとの連携・分担をすすめます。</p>

1-6 形成計画の事業と実施主体

形成計画の基本方針と計画の目標を実現させるために、主な事業を以下の12とします。また、本形成計画に基づき「地域公共交通再編実施計画」の検討と策定を行います（平成27年度を予定）。

基本的な方針	主な事業内容（事業主体）
村のまちづくりと協調した地域公共交通体系の確立	①村営バスと民間バスの統合（村、バス事業者） ②ハブバス停（和紙の里）の施設機能と地域公共交通の連携（村、和紙の里観光推進委員会、バス事業者）
和紙の里をハブとした交通ネットワークの再構築	③和紙の里をハブとしたバス路線の再編（村、バス事業者） ④ハブバス停（和紙の里）の整備（村） ⑤交通不便地区のデマンド交通（村、バス事業者） ⑥観光客用季節デマンド交通（村、バス事業者） ⑦過疎地・福祉有償輸送との連携（村、事業者） ⑧利用者ニーズとバスデータに基づくダイヤ最適化（バス事業者）
関係者の協働による利用促進策の拡充	⑨利用促進策（村、村民、事業者） ⑩利用しやすい運賃体系（村） ⑪周辺地域との連携（村、バス事業者） ⑫地域活性化と環境に配慮した魅力ある車両の検討（村、バス事業者）

①村営バスと民間バスの統合

混在する村営バスと民間バスを統合します。その際には、国補助事業の「地域公共交通再編推進事業」を活用することを検討します。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

②ハブバス停（和紙の里）の施設機能と地域公共交通の連携

村のまちづくりとしてすすめている「和紙の里」の施設機能の強化による「人が集まる」政策と綿密に連携した地域公共交通を実現するための各種施策を進めます。施設に人が集まるとその移動を支える公共交通が必須となります。また、人の移動をささえるバス交通が存在しても、移動する需要が小さければ利用者数の増加は見込めません。そのため、和紙の里の活性化と公共交通網の整備は、同時進行でプラスの相互作用をもたらすように進めることを最大課題としてすすめます。（実施主体：東秩父村、和紙の里観光推進委員会、バス事業者）

③和紙の里をハブとしたバス路線の再編

既存施設である和紙の里をハブ（交通結節点、小さな拠点）、バス路線をスポークとする「ハブ&スポーク型」の路線再編を行います。その際、路線定期運行となる村外鉄

道駅と和紙の里を結ぶ幹線バス路線、和紙の里から村内の主要地点を結ぶ村内路線を中心とした路線再編を行います。その際は、現在のネットワークを一度廃止して、村民と来訪者のニーズと利用実態を詳細に調査した上で新しい交通網に再編する必要があることから、「地域公共交通再編実施計画」の策定と国補助事業の「地域公共交通再編推進事業」の活用を検討します。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

④ハブバス停（和紙の里）の整備

ハブバス停となる和紙の里については、バスのターミナル、バス同士や他交通手段との乗換拠点となることから、バスの乗換機能を高めた施設として整備します。また、自動車や自転車などの駐車・駐輪施設など、滞留・滞在機能を高めた施設としても整備します。さらに、単なる乗換施設ではなく、村民のおでかけや観光客・来訪者の移動の起点・終点・立寄点となるべく、生活機能や観光機能を高める施設機能の向上施策と綿密に連携してバス利用者数を増やすことを目指します。（実施主体：東秩父村）

⑤交通不便地区のデマンド交通

村内の山間地の居住者はバス停まで20分以上徒歩で移動してバスを利用する方も存在することから、交通不便地区の調査検討をすすめ、東秩父村の特性に対応したデマンド交通の検討と導入を行います。特に、村民の日常のおでかけの目的として「買物、通院、その他私事」の場合に村外への移動が多いことと、本計画におけるバス路線再編の方向性を考慮して、適切なデマンド方式についての調査研究や実証運行などを実施した上での導入をすすめます。その際は、村民のニーズと利用実態を調査する必要があることから、「地域公共交通再編実施計画」の策定と国補助事業の「地域公共交通再編推進事業」の活用を検討します。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

⑥観光客用季節デマンド交通

村内の山間地などに点在する観光施設は、自家用車でなければ訪れることが困難な施設も多いことから、利用特性に対応するデマンド交通の検討と導入を行います。特に、花の開花時期など、季節が限定される観光が行われていることから、また観光需要の変動が天候やマスコミに取り上げられる等により大きく変わる特性を持つこと、また村民向けのデマンド交通との補完的運行の可能性の検討など、適切なデマンド方式についての調査研究や実証運行などを実施した上での導入をすすめます。その際は、来訪者のニーズと利用実態を調査する必要があることから、「⑤交通不便地区のデマンド交通」とあわせて「地域公共交通再編実施計画」の策定と国補助事業の「地域公共交通再編推進事業」の活用を検討します。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

⑦過疎地・福祉有償輸送との連携

村内には過疎地・福祉有償輸送のサービスが既に運用されているが、高齢者の登録者に利用が限られて、また飲酒を伴う会合への参加時には利用ができないなど、村民のおでかけとしての利用には一定の制限があります。旅客運送事業とは異なるサービスとしての位置づけと、村民のおでかけ需要をどのように扱うかについては、引き続き調査検討を進めます。また、現在のフルデマンド運用（任意の地点から地点への移動）につい

て、和紙の里のハブ機能を高めることが期待できることから、福祉的輸送についても起点・終点を積極的に「和紙の里」とする連携などについて、輸送事業者のNPOとの協働で検討をすすめます。（実施主体：東秩父村、事業者）

⑧利用者ニーズとバスデータに基づくダイヤ最適化（バス事業者）

路線バスのダイヤ（時刻表）については、利用者ニーズと実際のバス利用・運行のデータを把握して、適時ダイヤ改正を行います。バスは鉄道の2次交通としてダイヤ設定とすることが通常ですが、複数の駅の存在や、通勤通学利用が減少し、買物や通院、私事の利用が多いことから、地域のニーズにあったダイヤ最適化を図ります。バスデータの取得については、バスに乗降センサーを設置することで、バス停毎の利用者数を継続的に把握します。季節や天候による変動を把握出来る統計分析が可能なデータを取得した上で、見える化による情報共有と実際のダイヤ改定によりダイヤ最適化を図ります。

（実施主体：村民、東秩父村、バス事業者）

⑨利用促進策

村内の地区別活動で観光マップを作成する実績等があることから、村や村民が主体となった情報コンテンツの作成や、村民や来訪者のバス利用促進のためのモビリティマネジメントやバス教室、観光施設と連携を図った協賛事業などについて取り組みます。（実施主体：村民、東秩父村、事業者）

⑩利用しやすい運賃体系

バス事業統合と路線再編時には、村民と来訪者のおでかけ利便性を高めるために、利用しやすい運賃体系の見直しを検討します。家庭への負担が大きい通学目的でのバス利用者・世帯の負担軽減や、来訪者に分かりやすく利用しやすい運賃体系の導入を検討します。（実施主体：東秩父村）

⑪周辺地域との連携

ハイキングや観光客の移動性・周遊性を高めて利用者を増やすために、観光需要に対応した周遊プラン型の企画チケットや協賛事業、情報提供などについて周辺自治体や交通事業者との連携の検討と実施をすすめます。（実施主体：東秩父村、バス事業者）

⑫地域活性化と環境に配慮した魅力ある車両の検討

自然環境に恵まれた県内唯一の村であることから、地域公共交通としてのバス車両について、環境への配慮と観光資源として活性化に寄与するようなバス車両の導入などについて調査検討を行います。（実施主体：東秩父村、バス事業者）